伊達地区小学校長会 第148号(1)

太報 伊建 148

発行日 令和6年7月19日 発行者 伊達地区小学校長会 会長 五十嵐 修

編集同広報部



《巻頭言》

地域の中の学校

伊達地区小学校長会会長 五十嵐 修 (伊達市立上保原小学校長)

今年度、5年ぶりに上保原小学校に勤務することとなりました。校舎に懐かしさを感じ、当時1年生だった6年生児童には心身の成長を感じました。一方、地域に目を移すと、この5年間で大きく変貌を遂げました。学校の隣に新築された放課後児童クラブ。東北中央道伊達中央ICの開通。新たに造成された広大な住宅地、工業団地。学校近隣にできたコンビニや大型量販店。そして、3カ所に新たに取り付けられた信号機・・・。身近なところに激しい変化の波が押し寄せていることを実感しました。

新入生も多いのかなと思いきや、34名とここ数年で最も少ない人数でした。人口に関しては、その減少に関する話題が、各所で数多く取り上げられています。消滅自治体、出生率低下、入学児童の減少、学校の統廃合。子どもたちが、大人になっても地元に住み続けたり、地元に戻ってきたりしなければ、人口減少は加速度的に進むでしょう。

では、大人になっても地元に住み続けたり、地元に戻ってきたりして暮らしたい、という子どもたちを育てるためにはどのようにしたらよいのでしょう。学校としてできることは何かと考えたとき、今更ながら、地域のよさを子どもたちに実感させることが思い浮かびます。例えば、上保原においては、やはり、「果物」が重要なその手段となってくるでしょう。本校では、毎年、3年生が「アップル探検隊」と称して地域の果樹農家の方々にていた後隊」と称して地域の果樹農家の方々にないます。今年はこれまで、リンゴの受粉作業と、います。今年はこれまで、リンゴの受粉作業と、各自が選んだリンゴの実に継続的に関わり、秋にはその実を収穫します。1年間関わることで、果物

が収穫できるまでの過程について学んでいくとと もに、果樹農家の仕事内容ややりがい、苦労なぼを知る機会にもなります。これだけでも、上保原のよさを実感させることはできると思います。これを加えることができたら、より上保原の素晴らしさを子どもたちに実感させることができ、これからも上保原に住んでみたいという気持ちをもいからも上保原に住んでみたいという気持ちをもいからもと思います。そのためにもなりますができると思います。のかたちを明確にしているような学習になればと思います。

4月に、地元の神社の例大祭に招待されました。 様々な年代の皆さんが一緒に太鼓を叩き、山車を 引いて、地区内を回っていました。どの顔も笑顔 でいっぱいでした。世代を超えて一緒に楽しむ姿 がとても微笑ましかったですし、子どもたちも地 域のよさを存分に味わっていました。また、運動 会後には、PTA 会長さんが、校庭で太鼓体験や消 防車見学を企画してくださり、子どもたちは笑顔 で体験をしていました。子どもたちが地域の催し や活動に積極的に参加することも、地域のよさを 実感させる一つの方策だと思います。地域の方に 「ベテラン、若手、子どもまで一緒になっていて素 晴らしい姿ですね。」と話しました。子どもたち の参加を推奨するとともに、地域の方々を励まし、 地域の頑張りにも追い風を吹かせていきたいと思 います。

第148号(2) 提 言

《提言》



少子化による学校教育の在り方を考える

伊達市教育委員会教育長 渡 部 光 毅

少子化による学校教育への影響は、伊達地区に 限ったことではなく他県でも様々な試みが行われ ている。

4月18日から2日間、東北都市教育長協議会 定期総会・研修会が宮城県大崎市で開催された。 2日目の研修会では、小学校4校と中学校1校が 統合し、大崎市初の義務教育学校として 2023 年 に開校した古川西小中学校を訪問させていただい た。5校中、最も大きい中学校を一部増築した校 舎で、小学校1年生から中学校3年生(ここでは 9年生と呼ぶ) 338 名が共に学校生活を送る様子 は新鮮に映った。学校紹介のビデオでは入学式の 映像が流れ、9年生が1年生の手をつないで入場 してきた。それを見た保護者は、まだ幼い我が子 の姿と9年後の成長した姿を重ね、感動の涙を流 す場面が印象的であった。また、9年間のカリキュ ラムも柔軟に編成されており、一般的な「6・3」 制でなく、「4・3・2」制としていた。その意 図は多々あるが、低学年行事では4年生に下級生 の牽引役となるリーダーを担わせており、普段活 躍する場が少ない学年を主役に据えるなど随所に 特色が見られた。

このように、一見すると小学校と中学校の境目 のない義務教育学校の強みを生かして、順調に教 育活動が進んでいるように感じられるが、ここま でに至るには相当の苦労があったと聞く。例えば、 地域住民からは小学校がなくなることに対する反 対意見や、校内からは他校の子どもたちや教員と のコミュニケーションに関する不安など、統合を 不安視する声は学校内外から多数上がったようで ある。

大崎市教育委員会では、これらの不安を払拭するため、中1ギャップの解消や不登校・いじめ等に対して継続した指導が可能になるなど、一般的

な長所を地域に説明する一方で、新たに誕生する 古川西小中学校にふさわしい未来志向の教育について、5校の教員主導による意見交換会を繰り返 し行ったそうである。その成果の一例として、先 に紹介した「4・3・2」制の導入による柔軟な カリキュラム編成があげられる。

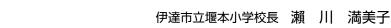
義務教育学校は、小中一貫校の新たな形として 2016年に文部科学省が制定し、2016年は全国で 22校であったのが、2023年には178校に増加し ている。令和6年度現在、福島県内に9校あり東 北6県では最も多い。県北地区では福島市松川地 区の小中学校が次年度から義務教育学校となる予 定である。

小中一貫校や義務教育学校も少子化という課題が根底にはあるものの、単純に人数が減ったからまとめるという「量」的な発想ではなく、その地域の10年先や20年後の未来を見据えた教育を考えることが重要である。そのためには、義務教育9年間を見通した議論が必要不可欠であり、今まで小学校と中学校が別々に行っていたものを、小中学校が一体となって何ができるのかという教育の「質」的転換を図ることが求められるのではないだろうか。

現在、伊達市教育委員会では霊山地区において 将来的には小学校と中学校が一つずつになる見通 しのもとで小中一貫校設立に向けた準備を進めて いる。5月2日の第1回推進会議では「霊山の未 来を拓く人づくり」に向けた教育の在り方につい て、3校の教頭先生を中心に3つの分科会で意見 交換を行った。参加した小中学校の先生方から研 ぎ澄まされた意見が出され真剣に議論する姿を見 たとき、教育の「質」的転換が図られていること を実感し、今後も大いに期待が持てると感じてい る。 新会員より 第148号 (3)

《新会員より》

地域の拠り所として





堰本地区は、神社やお寺など が数多く存在し、新山古墳、新 田愛宕神社の獅子踊りは市の文 化財に指定されているなど、と ても歴史のあるところです。そ して堰本小学校は、昨年度150

周年という節目の年を迎え、今、新たな歴史を刻 み始めています。このように歴史と伝統のある堰 本小学校に校長として勤務できることを、大変嬉 しく思っています。

本校では、生活科や総合的な学習の時間などに

地区の方にゲストティーチャーとして御協力いた だいたり、秋には地区体育協会との合同による「堰 本地区・堰本小学校大運動会」を開催したりする など、地区の皆様からはいつも温かい御支援をい ただいています。とてもありがたいことだと思っ ています。

素直で何事にも一生懸命に取り組む68名の子 どもたちをまんなかに、教職員と保護者や地域の 皆様が一体となり、地域の拠り所としての学校づ くりを進めていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

子どもも地域も元気な学校に



♪「人は百年 ふるさと千年 霊山 小国 みんなの学校 | (校歌の一部より)

本校は、昭和58年の統合に より開校した学校で、校歌もそ の時に制定されました。当時か

ら地域とともにあるみんなの学校という思いや願 いが歌い継がれていることを感じます。

また、小国地区には、地区の子どもたちと住民 のふれあいを深めることを目的とする「小国地区 ふれあいの会」という組織があります。これも学 校の開校に併せてつくられました。校内の美化活

伊達市立小国小学校長 佐 藤 隆 之

動に子どもと一緒に地域の方々にも参加していた だいているほか、門松づくりやだんごさし、節分 などの伝統行事や地域の文化的・社会的素材を活 かした地域学習にも協力をいただいています。

学校と地域がパートナーとして連携・協働しな がら学びを展開し、子どもたち自身にも積極的に 地域へ発信できる力を育みながら、子どもも地域 も元気な学校づくりを進めていきたいと考えてい

校長会の皆様、よろしくお願いいたします。

月舘学園の強み



本校は、伊達地区初の小中一 貫校としての歩みをはじめて5 年目を迎えます。校舎からは、 南に女神山が一望でき、西から 広瀬川のせせらぎが聞こえてき て、豊かな自然に囲まれていま

す。小学生 57 名、中学生 57 名の全校生 114 名が 同一施設の中で、日々の学びを進めています。

着任して私が感じた本校の強みの1つは、小・ 中学生が、学校行事などで交流しながら豊かな体 験をしていることです。その中で、中学生は小さ

伊達市立月舘学園小・中学校長 佐 藤 秀 和

い子の手本となるよう規律ある行動をし、優しく 接する思いやりの心が育っています。小学生は目 上の人を尊重し、憧れ、自分たちもいつかは先輩 たちのように成長したいという向上心が育ってい ます。この本校ならではのキャリア教育が、日々 の学校生活で実践されています。そして、なによ り小・中学校の教職員が、校種の垣根を越えて 「チーム月舘」となって子どもたちの成長を願い 教育活動に当たっています。この強みを本校の魅 力として発信し、学校経営を進めてまいりたいと 思います。どうぞよろしくお願いいたします。

第148号(4) 新会員より

子どもの教育に労を惜しまない



先日、社会科の学習で6年生と桑折西山城に登りました。桑 折西山城は、伊達稙宗が築いた 戦国時代の巨大山城です。第28 回全国山城サミットが桑折西山 城で開催され、城郭考古学者の

千田嘉博先生が、「奥州街道の要衝、規模、土塁や空堀の見事さは、難攻不落の巨大山城に値する」と絶賛された名城です。小学生の頃、西山城に登って以来、四十数年が経ち、子どもたちに後押しされての見学でしたが、驚いたのは大手口から本丸

桑折町立醸芳小学校長花輪忠康

館跡まで整備されていたことです。説明に同行してくださった生涯学習課の井沼千秋先生によれば、休日、町の方が総出で草刈り作業をしてくださったとのこと。広大な城跡を全て草刈りすることは容易なことではありません。小学生が見学に訪れることを予定して、町民の方が奉仕作業してくださったようです。子どもの教育に労を惜しまない桑折町民の思いがそこにも表れているようでした。自分も校長として、子どものため、地域のためによりよい学校づくりに努めて参ります。校長先生方のご指導を何とぞよろしくお願いいたします。

「半田ならでは」の教育を目指して



伊達地区に勤務するのは初めてでしたが、小学校の5年間を伊達東小で学び、大学時代に桑 折町や保原町で発掘調査の手伝いに来ていたことがあり、ふるさとに戻ってきたように感じます。

4月初め、学区内で「半田銀山史跡公園」を見つけました。今年度は、五代友厚が半田銀山を再経営して150年の記念の年にあたります。本校では、中学年が「半田銀山祇園ばやし」に取り組んでいます。また、「ふるさと学」として、低学年

桑折町立半田醸芳小学校長 丹 野 潔

が「だんごさし体験」、5年生が「ほたるの学習や米作り」、6年生が「西山城や半田銀山の歴史学習」など、地域の方々に教えていただきながら、ふるさと半田のよさや魅力を学んでいます。「半田ならでは」の取組を行いながら、ふるさとを愛し、優しさと強さを兼ね備えた子どもを育成していきたいと思います。

伊達地区の校長先生方のご指導やご助言を賜りながら、子どもたちのために力を尽くしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

笑顔あふれる学校づくり



桃畑に囲まれた伊達崎小学校は、4月になると一面ピンクの桃の花が咲き誇り、まさに桃源郷と呼ぶにふさわしい光景が広がります。震災で校庭の芝生が失われた後、地域の方々と力を

合わせて復活させました。まさに地域から愛される学校です。

桑折町立伊達崎小学校長 青 柳 俊 宏

新任校長として伊達崎小学校に勤務できることを光栄に思います。本校の伝統である「あいさつと返事」を大切に継承しながら、一人ひとりの子どもが個性を発揮できるよう努力して参ります。

伊達地区の校長先生方のご指導を賜りながら、 77名の児童、教職員、保護者、地域の方々のために、 「笑顔あふれる学校づくり」を目指し、全力で取り 組んで参ります。何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

猛暑の夏を迎える中、今年度1回目の広報誌「広報伊達148号」を発行することができました。ご多用の中、ご寄稿いただきました伊達市教育委員会教育長様をはじめ、7名の校長先生方に心より感謝申し上げます。今年度も、「伊達はひとつ」の言葉のもと、学び合い、支え合いのある校長会として横のつながりを深めて参りたいと思います。